

【主要登場人物】

佐伯美和子

○30 歳

○ナース歴 9 年

○身長 165 cm

○体重 48 kg

○B86W56H86

○D カップ

性交病棟 8 年目のベテラン。

患者への奉仕の精神は一流。

30 歳になって性交看護の依頼が減って苦悩中。

山咲佐和

○37 歳

○看護師長

○身長 160 cm

○体重 54 kg ○B90W60H91

○F カップ

性交看護の設立者の一人。

現役の性交看護ナース。

一日に 20 人の患者との性交看護の経験者。

白石奈々子

○29 歳

○ナース歴 8 年

○既婚者

○身長 167 cm

○体重 50 kg ○B88W53H87

○G カップ

新婚で人妻。

患者との性交看護と夫への愛の間で心が揺れ動く。

誰もが振り向く美貌の持ち主。

真性のDM。

桜井ひな

○21 歳

○新人ナース

○元トップアイドル

○身長 150 cm

○体重 42 kg ○B87W52H81

○G カップ

元トップアイドル。  
天然パイパンで美巨乳。色が白く愛嬌がある。

白石百合花  
○25 歳  
○ナース歴 4 年  
○白石奈々子の妹  
○身長 157 cm  
○体重 46 kg ○B89W57H87  
○F カップ

白石奈々子の妹。  
姉に憧れて性交病棟に移動。  
奈々子と同様に美貌の持ち主。  
性交病棟に配属された間もないが、連続性交に意欲的。  
性交病棟に配属される前から患者に性交看護をしていた。

『やすらぎの花園・性交病棟』 ご奉仕ナースの快感と嫉妬～序章～

「北原さん、今日は 301 号室の中本さんに SK お願い」

「はい」

「佐橋さんは 303 号室の井上さんに NK お願いね」

「はい」

「それと 306 号室の上原さんも NK ね」

「はい。わかりました」

朝のミーティングの時間。

看護師長の山咲佐和がナースたちに今日の担当患者と看護内容を伝えていく。

「皆さん、患者さんの前では常に笑顔を忘れないようにね」

「はい。わかりました」

ナースたちは笑顔でそう答える。

22 名のナースたち全員が容姿端麗で、

「ここはアイドル事務所かモデル事務所なのか？」

と疑う患者がいてもおかしくないほどの美女揃いの病棟である。だが、実際に全員白衣を着た現役ナースである。そして彼女たちの目には看護のプロフェッショナルとしての輝きがあった。

ここは都内郊外にある一般的な総合病院ではあるが、その中でもこの病棟だけは他の病棟にはない特別看護が行われている。入院患者のうち、軽傷で行動制限のない若い男性患者のみが入院し、病院内では「性交病棟」とも呼ばれている。

性交病棟で働くナースたちは誰もが患者への強い奉仕の精神を持ち、心も体も患者に捧げる覚悟を持っている。またそのようなナースのみが選ばれて所属している。

性交病棟では文字通り、通常の看護業務以外に、患者の性欲を処理する性処理看護が行われている。それは看護師長の指揮のもとで通称は TK、KK、SK、NK と呼ばれ、

○TK は手淫看護

○KK は口淫看護

○SK は性交看護

○NK は中出し性交看護

の略である。

性欲処理。

それは入院中の患者にとって重要事項である。自宅なら誰に気を使うことなく自由にできるはずのマスターベーションも、入院中はプライベートな空間がないために我慢しがちな状況にあった。そのためストレスが溜まり、本来なら早期退院できたはずなのに入院が長引いてしまったという事例が多発。特に若い男性患者にその傾向が見られた。

そんな時、外科的治療や薬による内科的な治療以外に、女性ナースとの肉体的接触によるコミュニケーションが病気の治療効果を増幅させるという研究が近年になって発表された。そこで、この総合病院では性交病棟を新設。最新の研究結果をもとにナースが患者と『性交看護』と呼ばれる性行為を行うことで、治療効果を高めて早期の退院を目指している。実際に、性交看護を日に 2 回以上行った患者の入院期間が 30%短くなるという結果が出たために、性交看護システムを取り入れる動きが日本全国に広がっている。

現在は、

- 手淫看護
- 口淫看護
- 性交看護
- 中出し性交看護

が行われているが、もともとは **DK** と呼ばれるディープキス看護もあった。  
激しいディープキスをする事で、ナースの唾液を含めた体液を男性患者の体内に染み込  
ませることで免疫力が増幅させるのが目的であったが、あるナースの、  
「キスは挨拶のように気軽なコミュニケーション手段として行いたい」  
という提案によって特別看護から外され、通常看護となった。

- 起床時
- 検温時
- 食事中
- 散歩中
- 入浴中
- 就寝前
- 添い寝中
- 深夜の見回り中

など、患者との挨拶としてディープキス看護は行われている。特に舌を絡め合うディープ  
キスは患者からの評判は良い。もちろんナース達からも好評で、  
「おはようのキスで 1 日が始まり、おやすみのキスで 1 日が終わる規則正しい入院生活は  
重要です」

「舌を絡ませ合うことで患者さんとの心の距離が近くなりました」  
「見つめあってキスをしてると時間を忘れて患者さんと信頼関係が築けるんです」  
「唇を通じて患者さんの苦しみを理解できるようになりました」  
「廊下ですれ違うときに激しくキスを求められると、信頼されてるんだなって思えて性交  
看護中にすぐ濡れるから患者さんに喜ばれるんです」  
「激しいキスのおかげで常に女性器が濡れているため、いつでも男性器を受け入れらるん  
です」  
といった意見が多く出て、大きな成果を挙げている。

また、コンドームを使用した性交看護もあるが、  
「コンドームを着けると患者さんの体調をしっかりと把握できないから着けないようにして  
います」  
「コンドームがあると患者さんとの間に心の壁ができてしまうから寂しいんです」  
「コンドームを着けると患者の体温をしっかりと感じ取れないから使いたくないです」  
というナースたちが多く、病棟に常備されているコンドームはほぼ使用されていない。ピ  
ルを服用しての避妊についてもナースたち個人の判断で行われているが、ほとんどのナ  
ースは避妊をしていない。ただ、感染症予防の観点から入院患者は入院時に、ナースたちは  
月に一度の血液検査を義務づけられている。

先程も書いたが、性交看護の主な目的は、男性入院患者の性欲処理をしてストレスを軽減  
させることにある。ストレスによって怪我や病気の回復が遅れないように、患者をリラッ  
クスさせる目的で行われている。性交看護を開始して以来、患者の平均入院日数が 30%減  
少しただけでなく、ナースと患者の信頼関係も増している。特に一日 3 回以上の中出し射  
精を 2 週間続けた患者は入院期間が 50%も短くなっている。

ただ、すべての患者がこの看護を受けられるわけではない。性交病棟に来る前に看護師長の山咲佐和が一般病棟に『挨拶』という名目で審査に行き、認められた患者にのみ性交病棟へ転科することができる。なお、審査基準については看護師長に一任されており、非公開となっている。

現在、性交病棟には 22 人のナースが勤務していて、22 人全員のナースが手淫看護、口淫看護、性交看護に対応。19 人のナースが中出し性交看護に対応している。まだ 3 人ナースが研修中で中出し性交看護を行えないが、現在、医師や事務職員らの協力を得ながら中出し性交看護の訓練中である。

性交看護を行えるナース 19 人のうち、8 人のエリートナースが連続中出し性交看護に対応している。連続中出し性交看護は、多い時には一日に 10 回以上もの射精を膣内に受け止めることができる。エリートナースはどのナースもが目指す憧れのポジションである。また、エリートナースの中には既婚者もいるが、夫には秘密にして中出し性交看護をしている。

このように性交病棟は一般病棟に比べて患者との肉体的、精神的に距離が近いこともあり、他の病棟のナースからは、

「性交病棟で患者さんにご奉仕したいから移動させてほしい」

という希望が殺到している。だが、患者への奉仕の精神は当然のことながら、容姿の良さやキスの技術、手淫、口淫、性交の技術試験の難易度の高さ、女性器の耐久力などの条件が厳しくて採用されるナースがなかなか出ないのが実情である。ただ、給与が特別に高いわけではなく、他の病棟のナースと同じにも関わらず、患者への奉仕の精神を持つナースがたくさんいることに看護師長の山咲佐和は喜んでいる。

ここで性交看護のルールをさらに詳しく解説しておこう。

性交看護は患者からナースの指名はできない。性交看護を開始した当初は指名制にしていたが、一部のナースに指名が集中し、負担が大きすぎるという理由からなくなった。しかし、これは表向きの理由で、実際は指名の少ないナースが指名の多いナースに嫉妬して看護師長に抗議したためであった。ただし、まったくナースを選ばないわけではない。

○ステージ①と呼ばれる 21 歳から 24 歳のナース（現在 12 人）

○ステージ②と呼ばれる 25 歳から 29 歳のナース（現在 8 人）

○ステージ③と呼ばれる 30 歳から 35 歳のナース（現在 2 人）

この 3 種類のステージから選ぶことはできる。ただ、どのナースが担当になるかまではわからない。その日の担当ナースはすべて看護師長によって決められているからだ。

また、夏休みや冬休み、春休みには 18 歳から 20 歳の看護学生ボランティア（人数未定）によるステージMと呼ばれる性交看護も選べる。だが、これにも問題点はあった。ステージMの期間になるとほぼすべての患者がこのステージを希望するため、ほかのナースから不満の声も上がって廃止も検討されるほどだった。ステージMが人気なのはやむを得ない。18 歳から 20 歳と若く、しかも処女は患者さんに捧げたいという看護学生もいたからだ。現役ナースたちの不満の声に対して看護学生たちからは、

「性交看護は患者さんと触れあえる貴重な機会なので続けたいです」

「セックスの技術を学ぶ貴重な体験だから性交させてください」

「キスがうまいと患者さんに褒められてモチベーションが上がったからいっぱいディープキスしたいんです」

「患者さんは若い体を求めていると思います」

「患者さんに処女を捧げたいんです」

との声が多くて廃止案は検討中のままである。

性交看護を希望する患者は前日に看護師長に申請して当日まで待つ。どのナースが担当になるかはすべて看護師長が決めているが、これにも問題はあった。約 60%の患者がステージ①を希望し、ステージ②は 35%。ステージ③を希望する患者はわずか 5%にしか満たないため、日々の担当ナース決めに看護師長は苦慮しているようだ。病院の事務からは「副看護師長を決めてサポートしてもらってはどうか？」と提案されたが、看護師長の佐和はそれを受け入れなかった。